

第1回検討会の議事概要

1. 第1回検討会での主な意見

【まちづくりの経緯と現状に対する意見】

＜商業施設について＞

- ・六甲アイランドの商業施設が苦戦している要因を見極める必要がある。駅前再開発による大規模商業施設等の立地の影響がすべてなのかどうか疑問。民間が六甲アイランドの現状をどう見ているのかも重要。
- ・住民から見れば、かつてのファッションプラザは大半が日常的に必要なものを揃えた店舗ではなかったため、住民はあまり利用しなかった。一方、住民に根付いたお店は固定客が多くなかなか閉店しない。民間事業者にとってはそのあたりのバランスが難しいのだと思う。
- ・六甲アイランドは自治会がしっかりしている。住民が自ら買い物をして、地域のお店を育てるという意識を持つことも大事。

＜ハレ（=非日常）とケ（=日常）について＞

- ・六甲アイランドには、かつては非日常を象徴するホテルや大型商業施設があった。また日常必要な住宅や教育施設も充実している。住民にとって今後も非日常的な大型商業施設や集客施設が必要なのか議論が必要。
- ・まちの賑わいが必要なのか、住民の日常を深めるだけでいいのか、日常と非日常を兼ね備えたまちを目指すのか、周りからみた六甲アイランドは何を期待されているのかなど、どこにターゲットをあてて考えていくのが重要。
- ・六甲アイランドにはリバーモールがあり、夏場に子供を連れて遊びに行けばそこで知り合った方と家族ぐるみの付き合いをするようになった。こういった場所は他になく、そういう意味で日常と非日常も狙えるまちなのかもしれない。
- ・地域の皆さんは買い物問題もあるので、日常をもっと深めてほしいのだと思う。ただそれだけでは地域で完結して終わってしまう。神戸市としてもある程度外からも人を呼び込みたいという考えはあると思う。

＜コミュニティ・環境などについて＞

- ・六甲アイランドは大阪にも近く、阪神間の経済圏の中で地の利が良いことが大きな強み。その強みを活かすための魅力をどう兼ね備えていくか、住民が持っているまちのコンセプト、コミュニティが重要。
- ・六甲アイランドは防犯の面でも安全なまちで、住民から見ても住み易いまちで、子育ても出来る、環境的にも良い。あまり不満はない。ただ民間事業者から見れば売上があがらず商売がしにくいという状況。
- ・六甲ライナーの運賃をもう少し下げることができればアクセス性が向上し、島外からもっと人が来やすくなるのでは。

【今後の検討の方向性に対する意見】

- ・まちの強み・弱みだけでなく、外的な要因である機会・脅威も踏まえて、現状の要因分析（SWOT分析）を行った上で、今後の方向性を議論すべき。
一般的に内向けの日常を深めて、外向けの非日常を深めていくことが大事。これらをどうしていくか議論していくことで目指すべき方向性が見えてくるのでは。
- ・既にあるまちは動かしようがない。既存のまちをどう利活用していくかという視点と、未利用地をどう活用していくかがポイント。六甲アイランドには様々なキャッチフレーズがある。文化・芸術、スポーツ・健康、子育て・高齢者や弱者に優しい、花と潤いのあるまちなど。ターゲットを絞って今後のまちづくりを考えていくべき。
- ・将来像の計画を策定するにあたり、今後、計画と違った方向に進んだときの対応をどうするのか。今までは出来ていなかったもので、そのような観点も重要。
- ・六甲アイランドはかつてワークライフバランスの実証実験を実施するような先進的なまちづくりを進めてきた。将来像の検討にあたり、例えば近未来を見据えた社会実験（自動運転、子育てしやすい環境、バリアフリー等）を行う街にするといった視点も考えてはどうか。
- ・ファッションマートのインキュベーションの取り組みとして、そこからどのような人々が輩出され、六甲アイランドでの起業に繋がっているのかどうか、そういう事象を調べて分析することがまちの将来像に繋がることもある。
- ・将来像については、5～10年後に具現化をできるものについて、議論した方がいいのではないか。